



代表取締役社長 **市川 重人**

新年のご挨拶

年頭所感

明けましておめでとうございます。

昨年末の終業式の頃から年明け、お正月参賀日に掛けて迄も、冬を感じられないくらいに晴天が続き、とても暖かな気候となり、我々運送業にとっては、積雪をさほど心配することなく、今のところを過ごせております。そんな年末年始の一段落感から来る気の緩みや寒暖差による体調不良には気をつけて頂き、晴れ晴れとした年始始めて頂きたいと思えます。

さて一昨年は、災害（特に台風や水害）が多発した年であり

ました。被災した方々には改めてお見舞い申し上げます。そんな中、弊社とこの地域は幸いにも大きな被害が無かったこと、そして世間的に不安視のあった景況感の良好な継続もまだあります。今年もそんな良い一年にまたそれ以上により良く成ることを期待したいです。

景気は色々不確定な部分がありました。昨年の世の中の出来事としては、予定や計画されたものが、次々と実施遂行されました。年号が平成から令和へと変わり、新天皇が即位され、G20サミット開催、消費増税とラグビーW杯開催と様々ありました。こういったことは、数年前から実施実行を目標に確り計画し準備検討した結果だと感じ



ました。

今年2020年の大行事としては、もちろん東京五輪があります。これを機会に日本が色々変わってきたことも感じますし、今後も変わっていくでしょう。会社としても65期という節目も迎え、約1年前から計画している大きな新事業計画がいよいよ始まります。【「豊明新営業所の開業 ※先月 開発許可が無事おりて、今秋に向けて建設工事がはじまります。」名古屋南

部の拠点は、それに伴ってのよい変化がありますし、段ボール関連と食品関連は、各拠点（小牧&浜松 知立&犬山）と各荷主工場との連携強化による様々な共有・交流・効率により良い効果として発揮されてきています。そういった目標や計画に至る迄、それを達成するには、良い変化や確りとした準備が必要です。また準備し難い、予測不能な変化もあると思われます。そういった様々な変化にも対応出来る組織であるべきですし、そういった組織がこれからの令和、2020年代をより良くなる会社組織であるとおもいます。そんな組織・チームを会社全体、『ONE TEAM』で協力し合って目指してまいります。

今年の干支は「庚子（かのえ・ね）」であります。『子（ねずみ）』は、干支の始まりであり、生命・繁殖・始まりと発展の象徴であり、『庚（かのえ）』は、新たな形への変化の象形、「かわる」「つぐ」という意味を持つとのこと。私はこの意義は、「子」・子どもが様々な「変化」を体験・経験し、立派な大人に成り変わる時と解釈します。正に2020年また南星キャリアックス65期に合致する年であります。

社員みなさま、ひとりひとりが、今までの実績と準備、変化を経験に変え、立派な人間すなわち『安心される物流のプロ』になることを、更に言えば、自分の周囲から『お手本』に成るよ

うな人を目標として目指すことが、今年、これからの南星の成長と発展につながると信じております。本年も皆様方の変わらぬご支援ご協力を宜しくお願い申し上げます。

